

NTTコミュニケーションズグループ

CSR報告書 2012



Global ICT Partner
Innovative. Reliable. Seamless.

つなぐ、ひろげる

目次・使い方



目次

代表取締役社長
有馬 彰

表紙について
インドネシアの小学校

使い方

各ページに、ナビゲーションボタンとカテゴリータブを設け、ページ間を容易に移動できるようにしました。

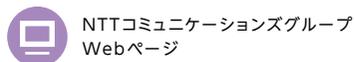


● カテゴリータブ

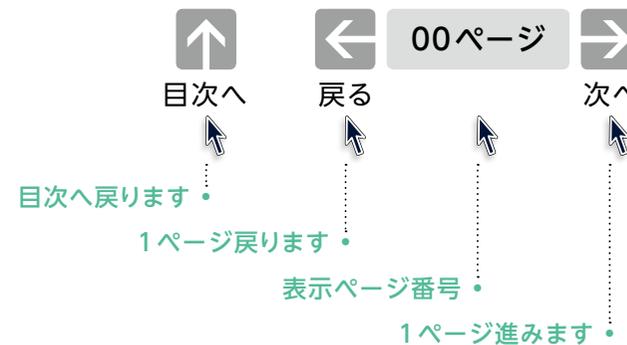


● 各カテゴリーのトップページへ移動します

● リンクボタン



● ナビゲーションボタン



印刷した場合、ページ番号を除くナビゲーションは印刷されません。



事業と社会

社会に根ざす私たちの事業

Global ICT Partner
Innovative. Reliable. Seamless.

“Innovative.” “Reliable.” “Seamless.”

それは、革新的で信頼性の高い、国内・海外を問わないシームレスなICTサービスを提供していく姿勢の表れです。

[Innovative]

多極化する世界を踏まえ、ますます進展するクラウド化とともに、革新的なサービスを全世界のお客さまに提案していきます。そのために、これまでの「ソリューション」を超え、つねに次の時代と世界を見据えて、お客さまのニーズを見越した価値あるサービスの開発に取り組んでいきます。

[Reliable]

高品質のサービスと安心感をグローバルに提供していきます。そのために、グローバルなネットワークやデータセンターをはじめとする強固なインフラ基盤をベースに、アプリケーション、保守運用まで、信頼性の向上を徹底的に追及し、世界から評価されるICTパートナーとなることを目指します。

[Seamless]

国内外シームレスなICTサービスをグローバルに提供していきます。そのために、サービスやオペレーション等をグローバルに標準化し、世界で必要とされるICTサービスをスピーディに提供できる体制を整えます。

NTTコミュニケーションズグループは、“つなぐ”ことを私たちの使命と位置づけ、国内長距離・国際通信事業を基盤に、さまざまなサービスを国内外に提供しています。

「つなぐ。私たちの使命」

現在と未来を「つなぐ」パートナーとして、ICTにより豊かな社会と安心で快適な生活の実現に貢献していきます。



社会

人

環境

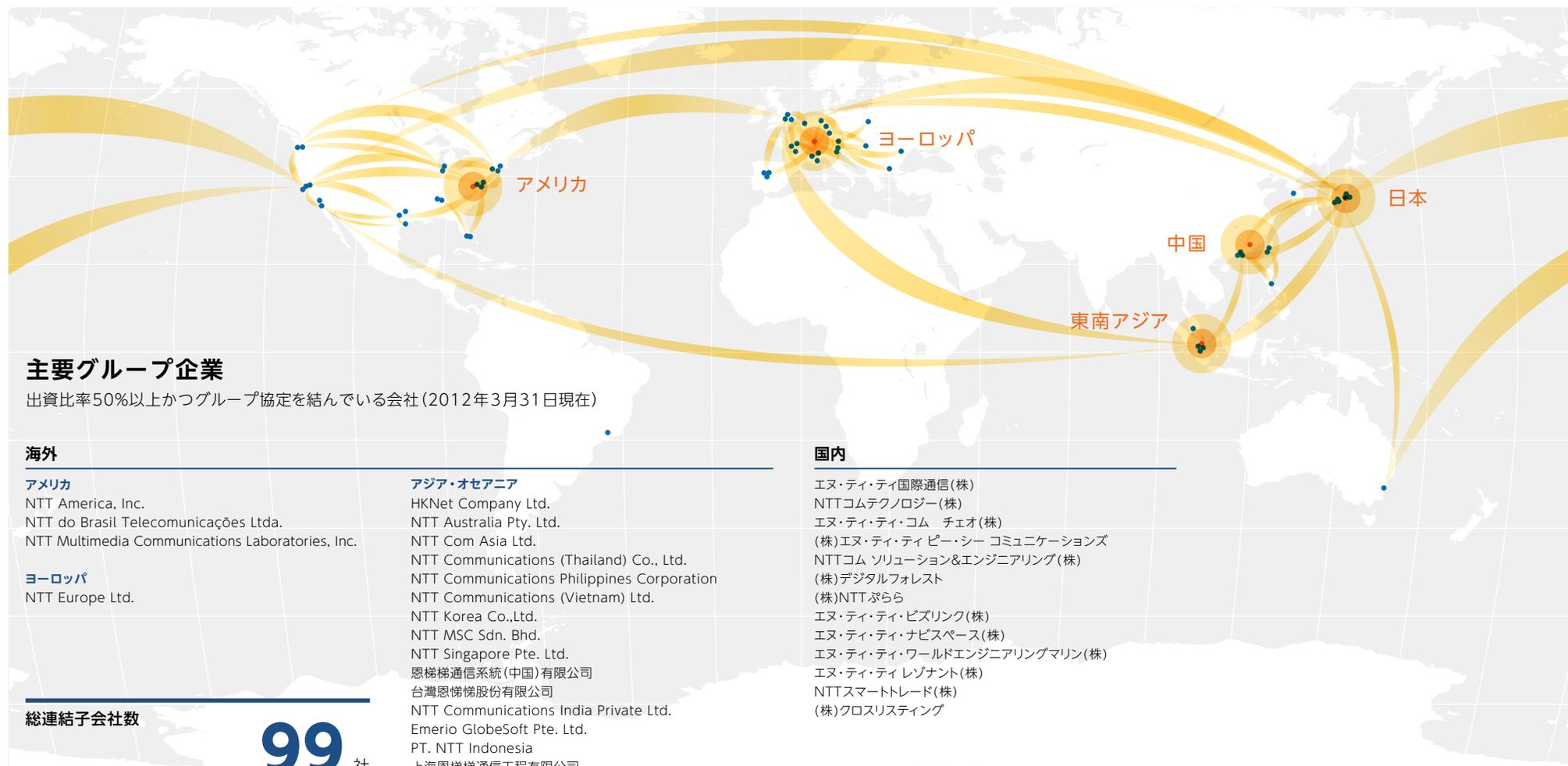
世界のさまざまな場所で「私たちならではの貢献」に挑戦します。



事業と社会

グローバルに支える

世界各地の拠点網を、多様な人材・堅実な事業基盤で運営し、皆さまの豊かな日々を支えています。



主要グループ企業

出資比率50%以上かつグループ協定を結んでいる会社(2012年3月31日現在)

海外

アメリカ

- NTT America, Inc.
- NTT do Brasil Telecomunicações Ltda.
- NTT Multimedia Communications Laboratories, Inc.

ヨーロッパ

- NTT Europe Ltd.

アジア・オセアニア

- HKNet Company Ltd.
- NTT Australia Pty. Ltd.
- NTT Com Asia Ltd.
- NTT Communications (Thailand) Co., Ltd.
- NTT Communications Philippines Corporation
- NTT Communications (Vietnam) Ltd.
- NTT Korea Co.,Ltd.
- NTT MSC Sdn. Bhd.
- NTT Singapore Pte. Ltd.
- 恩梯梯通信系統(中国)有限公司
- 台灣恩梯梯股份有限公司
- NTT Communications India Private Ltd.
- Emerio GlobeSoft Pte. Ltd.
- PT. NTT Indonesia
- 上海恩梯梯通信工程有限公司

国内

- エヌ・ティ・ティ国際通信(株)
- NTTコムテクノロジー(株)
- エヌ・ティ・ティ・コム チェオ(株)
- (株)エヌ・ティ・ティ・ピー・シー コミュニケーションズ
- NTTコム ソリューション&エンジニアリング(株)
- (株)デジタルフォレスト
- (株)NTTぶらら
- エヌ・ティ・ティ・ビズリンク(株)
- エヌ・ティ・ティ・ナビスペース(株)
- エヌ・ティ・ティ・ワールドエンジニアリングマリン(株)
- エヌ・ティ・ティ・レゾナント(株)
- NTTスマートトレード(株)
- (株)クロスリスティング

総連結子会社数

99 社

グローバルサービス

CSRの姿勢

私たちならではの貢献を目指し

NTTコミュニケーションズグループのCSR活動は基本方針にもとづき社会の課題解決に貢献しています。

NTTコミュニケーションズグループのCSRの考え方

NTTコミュニケーションズグループは、自分たちならではの社会への役立ち・貢献を重んじています。この実現に向け、CSR基本方針を、また、より具体的な目標として重点活動方針、環境ビジョンを定め、社員一人ひとりが日々の事業活動で実践しています。

CSR基本方針

(2006年策定)

私たちNTTコミュニケーションズグループは、グローバルICTパートナーとして、情報通信サービスの提供を通じて、グローバル規模で社会の新たな価値創造や課題解決に取り組み、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

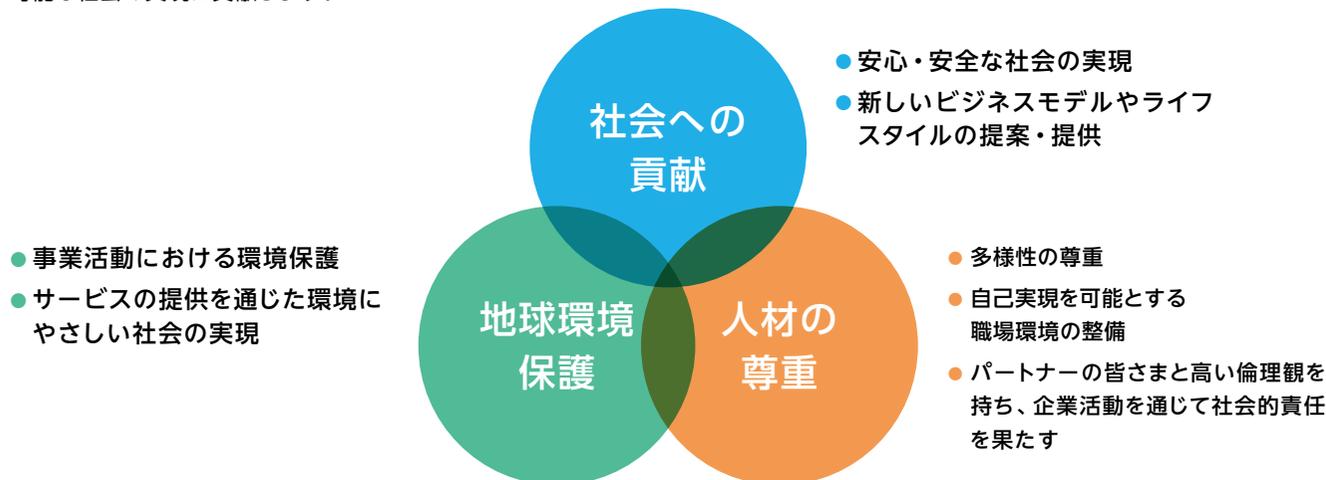
CSR重点活動方針

(2011年策定)

CSR基本方針を継続的に実践するための具体的な目標を設定しています。また、環境面については「環境ビジョン」を別途設けるなど、事業の特徴を踏まえた活動を重視しています。

NTTグループの一員として

NTTコミュニケーションズグループのCSR基本方針はNTTグループCSR憲章を踏まえ、NTTグループ一体となり社会の課題解決に取り組んでいます。



事業を通じ、私たちならではのCSRで、グローバルに支える

NTTグループCSR憲章



CSRの姿勢

社会の一員としての責任

“つなぐ”ということに価値を置く私たちは、さまざまなステークホルダーとのつながりも常に意識しています。

私たちの行動規範

NTTコミュニケーションズグループを取り巻くすべての利害関係者がステークホルダーです。お客さまやビジネスパートナー・株主のみならず、私たちの企業活動によって影響を受ける競合他社や社会全体、ともに働く職場の仲間もステークホルダーです。

行動がひとりよがりにならないためには、ステークホルダーから信頼され評価していただくことが会社の利益と持続的発展につながる、という視点が欠かせません。

お客さまに対して

1. お客さま第一の視点で、お客さまにとって本当に価値あるサービスを提供します
2. NTTコミュニケーションズグループの社員としての責任とプライドを持って、スピーディ・柔軟・誠実に対応します
3. お客さまとの永続的な信頼関係を築きます

ビジネスパートナーに対して

1. お客さまに提供する価値を最大化するために、パートナーとよりよい協力関係を築きます

株主に対して

1. 事業活動に関する情報を公正、正確、タイムリーに開示します
2. 企業として絶え間ない成長を続け、株主の利益を高めるように努めていきます



競合他社に対して

1. ルールを守り、フェアな競争を行います

社会に対して

1. サービスの提供を通じて、ICT社会の健全な発展に貢献します
2. 社会とのつながりを大事にし、地球環境保護に貢献します
3. 世界各国の文化・慣習を理解し、尊重します

社員・職場環境に対して

1. 個性と多様性を認め、お互いの人権を守ります
2. お互いを信頼・尊重し、自己実現を図るのにふさわしい環境をつくります
3. ICT企業として、セキュリティ保護に全力を尽くします

- **人権方針**
私たちは、グローバルに展開する企業として、人権を尊重した「豊かな人権文化」を創造していくことを使命のひとつと考え、日々の事業活動を通じて人権問題の解決に努めています。
- **地球環境憲章 基本理念**
NTTコミュニケーションズグループは、グローバルな規模であらゆるお客さまの利益につながる最高水準のサービスを創造し、提供するすべての過程において、地球環境保全に積極的に取り組むとともに、環境にやさしい社会の実現に貢献します。

グローバルな取り組みの加速

近年、顧客企業のグローバル化に伴い、私たちの事業も、さらにクロスボーダーで多様になりつつあります。このような状況の中、私たちは、持続可能な社会づくりに貢献するためCSR活動をグローバルな視点で網羅・拡大することが重要であるという認識にもとづき、世界各地での取り組みを加速しています。

Our Business Principle

つなぐ、ひろげる

目指すもの

CSR重点領域



2011年に新たに定めた「新・重点領域」に即した活動は、開始一年目を迎えようとしています。一歩ずつ、私たちならではの貢献に取り組んだ成果をご紹介します。



森 清
常務取締役
CSR委員長

領域1 社会への貢献

私たちは常に社会から信頼されるよう行動します。

特に重視している項目

- ユビキタスネットワークインフラの整備
- 重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
- 社会貢献活動

社会の問題・注目点

- 消費者課題
- コミュニティ参画



社会の安心・安全を支える使命を果たすため、災害に強いインフラづくりを推進しています。また、進化するユビキタス社会に即し快適なコミュニケーションを提供する「グローバルクラウドビジョン」を提唱しました。

領域2 地球環境保護

私たちは美しい地球とそこに生きるすべての生物の共存に寄与します。

特に重視している項目

- 温暖化防止
- 廃棄物削減
- 紙資源削減
- 生物多様性の保全

社会の問題・注目点

- 環境問題



ICTサービスを提供する事業者として、低炭素社会の実現や循環型社会の推進、生物多様性の保全を重視しています。特に拡大するデータセンターのCO₂削減に加え、設備の環境負荷低減や生物多様性配慮など、多面的な取り組みをグローバルに展開しました。

領域3 人材の尊重

私たちはお互いを信頼・尊重し、自己実現を図るのにふさわしい環境をつくります。

特に重視している項目

- 多様性の尊重と機会均等の推進に向けた取り組み

社会の問題・注目点

- 人権
- 労働慣行



人材の多様性を尊重した、活力ある体制づくりの施策を引き続き積極的に展開しています。また、ボーダレス化するビジネスを踏まえ、グローバルな人材を活かすための新たな施策も多面的に加速しました。

領域4 ガバナンス

私たちは経営の透明性と健全性を確保することを最重要課題として位置づけています。

特に重視している項目

- 情報セキュリティの確保

社会の問題・注目点

- 組織統治
- 公正な事業慣行



法令順守はもとより、お客さまの情報をお預かりすることの重大性を強く認識し、引き続き情報セキュリティの確保、提供サービスの安全性の監視など、万全の体制づくりに向けて全職場に浸透を図りました。

つなぐ、ひろげる

社会への
貢献

安心・安全で「つなぐ」。



ユビキタス社会をICTで支える 先進のグローバルクラウドビジョン



グローバル化する社会の期待に応えるための、新たなビジョン

「世界中どこからでも、隣にいるように」「24時間365日、安心できるインターネットを」。ユビキタス社会の進化とともに、社会のニーズも高まっています。私たちNTTコミュニケーションズグループは、先進のサービスを通じ、社会の着実な発展に貢献し続けることを重要な使命と考えています。

特に近年、世界経済がボータレス化する中で、グローバルなICTサービスへのニーズが高まっています。また、東日本大震災など大規模災害の教訓として、緊急時にICTが果たす役割が注目されています。2011年10月に発表したグローバルクラウドビジョンの一部は、大規模災害後の社会の期待に応える新たな取り組みにも活用できます。

社会をつなぎ続けること、新たなビジネスチャンスを育むこと。
ICTだからできる貢献をグローバルに追求します。

世界をまたぎ、快適なサービスを、安心・安全に

同ビジョンの特徴は、クラウドを活用し、世界各地から、多様なサービスを、常に信頼の高い状態で利用できる環境を提供することです。この実現には、充実した端末メニューから分散したデータセンター、品質の高い通信ネットワークまでをワンストップで提供できることが重要です。これこそ、グローバルコミュニケーションのスペシャリストである、私たちの経営資源が貢献できる場といえます。

国内外を問わずシームレスな運用体制を実現した通信・データセンター網を基盤に、世界のデータセンターをつなぐ仮想化技術を積極的に活用することで、先進・信頼のサービスを提供していきます。



つなぐ、ひろげる

つなぐ、ひろげる



保守運用体制

24時間 365日



- お客様の声を聞く取り組み (VOC)
- Arcstar Carrier Forumなどを通じた取引先や海外キャリアとのコミュニケーション
- 社会貢献活動、文化支援活動

震災を教訓に、さらに確かなネットワークを



JAPAN

世界中で起こり得る「万一」に備えるため

私たちNTTコミュニケーションズグループは、過去の経験と、東日本大震災の経験を踏まえ、さらなる早期復旧を目指し、災害に強い設備の有り方を一丸となり検討しています。

被災時の教訓を集積し、国内外のインフラづくりに役立てることが、私たちの使命です。



ケーブルの復旧作業模様

より強く、しなやかなネットワークに向けて

復旧活動を振り返り、集まった情報は「東日本大震災復旧活動記録」として全社員に配布しました。震災経験を風化させることなくさらに高い使命感を持って、総合的な防災力の向上に努めます。具体的には、国内の複数のルートにてケーブル断が発生しましたが、ケーブル間の離隔を全国的に見直しました。

また、過去の台湾沖地震にて複数の国際海底ケーブル断がありましたが、地震多発エリアを避けたAsia Submarine Cable-Express (ASE)ケーブルの敷設を行うなど、NTTコミュニケーションズグループの経験とノウハウを随所に反映した、しなやかなネットワークの構築に取り組んでいます。

災害対策の取り組み

東日本大震災の教訓を活かし、タイ国での大洪水においても、現地NTT Communications (Thailand)と国内、災害対策員連携により、現地状況の的確な把握、また、多くのお客さま装置の救済実施や通信の代替手段の提供を実現しました。緊急時のICTの役割が期待されている現在、これからも、グループをあげ、ネットワークの安心と安全に取り組んでいきます。



タイ市内の洪水被害の様子

つなぐ、ひろげる

地球環境
保護



環境負荷低減に「つなぐ」。

CO₂削減を徹底した先進のデータセンターで、持続可能な社会づくりに貢献する



高まるデータセンターのグリーン化

クラウドサービスが普及し、ユビキタス社会を支えるデータセンターの役割が高まるにつれ、低炭素社会を構築する上での影響も増えています。NTTコミュニケーションズグループは、ICT企業が環境経営を追求する上で、データセンターは最も重要な領域のひとつと捉え、そのグリーン化を積極的に進めています。

先進の技術を集約したNTTコミュニケーションズのデータセンター

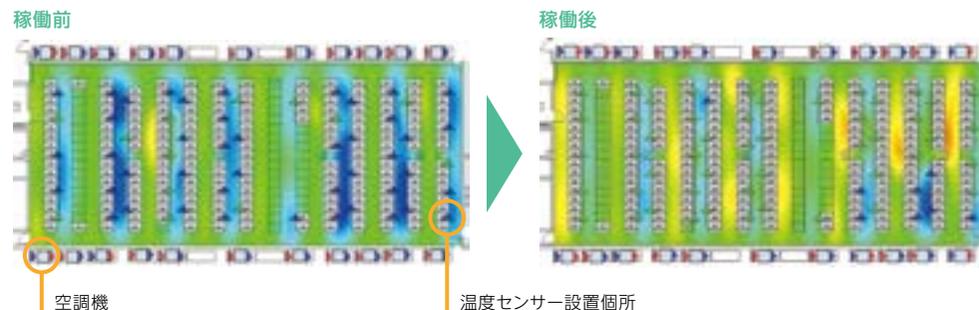
サーバーやストレージなどのICT装置は高密度化してきており、この大量かつ集中的に発生する熱を効率的に取り除くことが求められています。そこで、高効率な空調機の導入・更改をはじめ、ICT装置への給気(冷気)と排気(暖気)が混ざらないようにする気流制御技術

地球の明日を考え、先端技術と現場の視点を結びつける。日本で、世界で、私たちの取り組みは加速しています。

“アイルキャッピング”^{*1}や外気を利用した冷房技術などを導入しています。加えて、データセンターでの最新の取り組みとして、サーバー室の温度を多ポイントで計測し、これにもとづいて空調を効率的に運転する空調制御技術“SmartDASH”^{*2}を国内外のデータセンターに試行的に導入し評価しています。効果を検証すると、空調の消費電力が最大20%削減できるとの結果が得られたことから、投資・費用対効果などを考慮して今後本格的な導入を進め、これにより約0.6万トンのCO₂排出量の削減が期待できます。

*1「アイルキャッピング」はNTTファシリティーズの登録商標です。 *2「SmartDASH」はVigilent社の登録商標、または商標です。

SmartDASHによる過冷却の改善



▲ 冷え過ぎ箇所 (設定温度下限値以下) ▲ 適切 (設定温度内 18℃~24℃)

グリーンICT

つなぐ、ひろげる



2012年度CO₂排出量(目標)

27.8 万t-CO₂

* 新たな省エネ技術や設備などを活用し、CO₂排出量を前年度と同程度に抑える



- グリーンICT技術の目利きと積極的な採用・展開
- リサイクル推進によるゼロエミッション化
- 事業を通じた生物多様性の保全

世界に広げる グリーンイノベーション



さらなる環境性能の向上に向けて

データセンターに求められる環境性能は、CO₂削減にとどまらず、環境負荷物質の低減や生物多様性への配慮など多岐にわたります。NTTコミュニケーションズグループは、環境配慮を世界共通の課題と位置づけ、その技術を海外のデータセンターでも積極的に活用しています。

シンガポールに結集した先端技術

2012年4月にオープンしたシンガポールのセラングreen データセンターでは、冷却効率の高い水冷空調機やビルエネルギー管理システムの導入などによる消費電力の削減だけでなく、次にあげるさまざまな面での環境配慮への取り組みを行っています。

- ①水の有効活用** 雨水を溜めて敷地内の植物への散水に利用しているほか、再生水を空調の冷却水に活用するなど、水資源の節減を徹底しています。
- ②環境負荷の低減** 分別の徹底などによりリサイクルを図っているほか、鉛蓄電池ではなくロータリーUPSを採用することで環境負荷物質の利用削減などを行っています。
- ③生物多様性への配慮** 建設地にあった植物を施設内に植え替えるなど、データセンターの建設にあたって植生の保全に配慮しました。

これらの取り組みにより、「世界でも先進的な環境調和型データセンター」や「グリーンなデータセンターの未来形」といった評価を得ています。今後もデータセンターでのグリーンイノベーションに貢献していきます。



環境負荷低減に優れる
ロータリーUPS



雨水および再生水の積極活用



世界の評価を受ける

シンガポール セラングreen データセンターは、シンガポール政府の環境基準であるBCA Green Mark Platinumを受賞するなど、世界的に高い評価を獲得しました。

BCA Green Mark Scheme



シンガポール国家開発省の機関である建設局BCA (Building & Construction Authority) が認定する建築設計の環境配慮に対する評価制度。

つなぐ、ひろげる

人材の
尊重



グローバルな力で「つなぐ」。

多様な視点と価値観を高め合う、海外への派遣プログラムと日本での受け入れ研修



日本から海外へ、そして海外から日本へ

NTTコミュニケーションズでは、グローバルに活躍できる人材の早期育成を目指し、若手社員を対象とした海外派遣プログラム「Global Challenging Program」を実施しています。

「現場にこそ成長の機会がある」との人材育成方針にもとづき、海外での現場実務からグローバルで通用する実務スキルを身につけるため、本プログラムは2011年度から入社1～2年目の社員まで対象を拡大しています。

派遣中は実務に従事するほか、定期レポートの提出など、育成フォローアップ施策も実施しています。



多様な視点で高め合う

世界に挑む人材を育む。
国境を越えたグローバルな視点で人材マネジメントを推進。

派遣期間は1年間で、2011年度は約50人を派遣し、今後はもっと多くの若手社員を派遣していく予定です。

また、NTTコミュニケーションズでは、現地法人社員を対象に日本で2年間または6カ月間の出向受け入れを実施しています。2012年2月末現在、アメリカやヨーロッパ、アジアの12現地法人から受け入れた24人が、日本国内で業務を行っています。事業のグローバル化が加速する中、各国社員との交流を行い、ともに業務を遂行していくことにより、言葉や文化の違いを越えた多様性の理解が深まります。

即戦力の現地採用も加速

さらに近年は、顧客企業の急速なグローバル化に対応した実践型人材の確保にも取り組んでいます。国内の外国籍留学生の採用に加え、外国籍学生の現地採用を、アジア地域を中心に強化し、採用数の1割以上を外国籍の人材とすることを目指しています。

今後も、よりグローバルな視点に立った人材交流を行い、グループとして一体感のあるダイバーシティ風土の定着を目指します。

採用のご案内
キャリア制度について知る

つなぐ、ひろげる



若手社員の海外派遣者数 海外からの受け入れ人数

約 **50** 人 **24** 人



- 経営陣と社員との定期的意見交換
- グローバルな人材交流プログラム
- 多様な人材を活かす取り組み

価値観を共有し、信頼を得ることが、グローバルチームで役立つ



2011年4月から1年間、NTTヨーロッパで財務業務全般を経験し、帰国後はグローバル事業推進部に於て現地法人の事業計画・財務分析を担当しています。トレイニー期間中は、イギリス人だけでなく、オランダ人やスペイン人など、さまざまな国や文化の方々と仕事をし、異文化の中で信頼を得るには、Simple、Speedy、Smileという3つのSが必要だということを学びました。全世界の財務担当者がカウンターパートとなる今の仕事でもたいへん役立っています。



高橋 啓介
グローバル事業推進部
企画部門 企画担当 主査

We share the future as one team



さまざまな思想、文化が混在するグローバルな環境下において、業務を効果的に進めていくことは非常に難しく、チャレンジであるといえます。しかしながら、グローバルなプロダクトを商品化するとき、もしくは、グローバルな顧客・パートナーとビジネスをする際は、必ずこれらの点を留意しながらプロジェクトを進めていく必要があります。

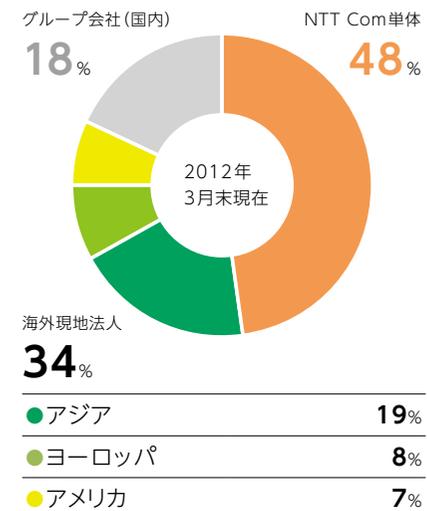
私は日本での出向プログラムに参加したことにより、利益が相反する組織同士の問題解決方法や、グローバルな視点でのものの見方などを学ぶことができました。このことは私にとって貴重な財産であり、現在の業務に役立っています。



John Nassar
NTT America
Finance Department
Director

NTTコミュニケーションズグループ 従業員構成比率

数年前まで約2,000人だった海外従業員数が今では5,000人を超えています。今後も国籍や価値観の違いなどを受容し活躍していけるよう、グループ一体となって推進していきます。



つなぐ、ひろげる

さらなる
挑戦

そして、「ひろげてゆく」。



子どもたちの希望をかなえる BOPビジネスへの挑戦



BOP層に貢献しつつ、ともに価値を創るという考え

世界の途上国には、BOP層と言われる低所得層が存在します。その年収3,000ドル以下の人口は全世界の約7割を占め、40億人に達すると言われています。このような中、BOP層の多く住む地域において社会問題や生活環境の向上に貢献する施策を企業が展開し、ひいては企業も将来の市場を創出するという「BOP層との社会的価値の共創」の挑戦が、世界各地で注目されています。

インドネシアの子どもたちが直面する現状

インドネシアでは、自分が望む教育サービスが受けられる環境にいる子どもたちは3~5%に過ぎません。つまり、ほとんどの子どもたちが、意欲や能力があっても貧困や地理的要因から十分な教育が受けられない状況です。この解決策として、ICTを活用して効果的な教育サービスは提供できないかという声が、NTTコミュニケーションズに寄せられました。

社会に新たな価値を生み出す「行動力」を大切にしています。
事業を通じ日々行われている、挑戦の事例をご紹介します。

私たちだからこそできることを、ひとつずつ

私たちはまず、日本の教育事業者と連携し、ICTによる教育環境の構築を目指しました。さらに、ICTだけでは解決できない課題について、現地パートナーとのコラボレーションにより解決しようとしています。

非常に困難な課題が山積みで、私たちの挑戦は始まったばかりですが、世界に新たな価値を提供していきたいと思っています。



現地でのプロジェクト説明会



現地パートナーとの打ち合わせ

途上国の社会問題への参画



つなぐ、ひろげる

私たちならではのCSR

つなぐ、ひろげる



子どもたちの夢をかなえつつ、社会に新しい価値を

現地の課題やニーズを把握するため、パートナーと何度も議論を重ねてきました。実際子どもにサービスを届け、想像していた以上に子どもたちが楽しく、元気に学習ができたので、ほっとした思いと大きな責任を感じました。また、保護者からも大きな期待が寄せられているのを感じます。

インドネシアでの取り組みはまだスタートしたばかりで、より多くの地域、多くの子どもに、よりよい内容のサービスを届けられるようにがんばりたいと思います。



周 佳葉
第三営業本部
公共営業グループ
営業主任

子どもたちが安心して勉強できるということ

普段子どもがICTに触れることがないので、親としてこのようなサービスを子どもが使いこなせるのかと不安でしたが、いきいきと学習できている様子を見てうれしく感じました。

(保護者からの声)

学校でも自宅でもICTツールに触れることがなかったもので、新鮮で時間を忘れてしまうほど楽しく勉強できました。

もっとたくさん勉強したいと思いました。

(子どもからの声)

アジアを横断するプロジェクトに
インドネシアからアジアへ、
そして世界へ

教育、特に初等教育は生きていく上で必要な基礎であり、子どもたちが自分の夢を持ち、それを実現する努力ができるようにすることは、子どもたち自身にとっても、その国の発展にとってもたいへん重要で、意義のあることだと考えます。同様の課題やニーズはアジア各国でも存在し、今後アフリカ、中東、南米などでも、より顕在化してくるはずで

です。大義があり、目の前に困っている人が私たちのサービスを心から喜んでくれて、そんな仕事をビジネスの本業としてできることは、私個人にとってこのうえない喜びであり、大きな使命と責任も感じつつ、心からがんばりたいと思います。



高田 照史
第三営業本部
公共営業グループ
営業部長

詳細情報

CSR指標 2011年度のまとめ

2011年度の主な成果は以下のとおりです。
詳しい指標の一覧は、詳細版をご参照ください。

社会への貢献

領域1 社会の指標

ユビキタスネットワークインフラの整備

● Arcstar Universal Oneの提供
クラウドへ安全につながるための次世代ネットワークサービスとして企業のICTにおける課題を解決。今後はユーザーのニーズに応える機能を順次追加し、利便性の向上を図る

● 安心・安全なデータセンターの提供

ITIL® (Information Technology Infrastructure Library)¹⁾ 準拠の基準を国内外各現地法人に適用し、品質の維持・向上を推進。また、災害に強いデータセンターの運用を目指し、常に品質向上に努めるとともに、センターの整備・拡充に取り組む

重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保

● 災害に強いネットワークづくり
多ルート化、分散化など、有事に備えた取り組みを通じ高品質な情報通信サービスの提供により、災害に強い社会づくりを目指す

● 大規模災害などへの対策

大規模災害が首都圏に及ぶケースや計画停電なども想定した災害対策訓練の充実と、政府、自治体とも連携した危機管理プロセスの高度化・定着化

社会貢献活動

● 地域美化活動など社会貢献活動の参加

各種清掃活動などを実施し、NTTグループ施策と連動し、達成を目指す
参加人数 1,300人



2011年度の実績について

Arcstar Universal Oneは2011年9月より世界159の国・地域でサービス展開を開始し、グローバルなICTサービスの新たなページを刻みました。また、震災を教訓としたネットワーク構築を加速すると同時に最先端のグリーン性能と災害リスク対策を備えた東京第5データセンターを竣工するなど、安心・安全に寄与する取り組みを進めました。

地球環境保護

領域2 環境の指標

温暖化防止

● CO₂排出量の削減
CO₂排出量²⁾ 27.8万t-CO₂
CO₂排出量の環境効率性指標 4.36
(売上高百万円/CO₂排出量トン)

廃棄物削減

● オフィス廃棄物の削減
リサイクル率 73.4%
廃棄物最終処分量の環境効率性指標 961
(売上高百万円/最終処分量トン)

紙資源削減

● 紙使用量の削減
事務用紙の使用量 (A4換算) 9,287枚/人
紙使用量の環境効率性指標 2,856
(売上高百万円/紙使用量トン)

生物多様性の保全

● 行動指針の策定
行動指針を策定し、これまでの活動を体系的に評価
重点取り組み分野を設定



2011年度の実績について

2011年度は、通信ビルでの電力削減に向けた新たな技術の導入やオフィスビルにおける節電の徹底、低公害車への更改方針の策定により温暖化防止を推進しました。加えて、効率的な水利用や生物多様性に配慮したデータセンターの構築など環境負荷低減の取り組みをグローバルに展開しました。

人材の尊重

領域3 人材の指標

多様性の尊重と機会均等に向けた取り組み

● 働き方改革の全社展開による多様な働き方の推進
より生産性の高い働き方を行うことを目標にし、「働き方」を業種に合わせて見直す施策を展開し、在宅勤務など多様な働き方を推進する
リモートワークの実施者数 約5,000人

● 育児/介護と仕事の両立支援の拡充

社員が両立を行いながらいきいきと働くことができるように、従来の施策に加え、男性や若手社員などに対象を拡大するとともに、グループに水平展開する
出産後の女性社員復職率 9割以上

● グローバル規模での人材交流の拡大

若手社員・中堅社員を中心に海外トレイニーとして派遣するプログラムや海外現地法人からの日本への出向制度などを拡大し、グローバル規模での人材交流を活性化させる



2011年度の実績について

2011年度はグローバルな人材の育成を加速し、新入社員の海外トレイニーの増員、海外現地法人との人材交流プログラムの推進などに加え、外国人採用の拡大を実施しました。また、多様性を尊重する取り組みも引き続き重視し、リモートワークの実施者が5,000人に達する一方、育児両立支援セミナーの参加者は200人を超えました。

マネジメント

領域4 ガバナンスの指標

情報セキュリティの確保

● 研修実施による継続的意識啓発
セキュリティ研修と理解度測定、役割別セキュリティ研修の実施により意識向上を図りインシデントの発生を抑制
各種研修受講率 100%

● プロセス、システム上の管理強化

顧客情報を安全に扱うプロセスの管理強化、情報システムの脆弱性診断の強化、診断のグループへの拡大

● セキュリティ調査の実施

セキュリティ調査のグループ拡大



2011年度の実績について

情報セキュリティの確保に力を入れた指標の浸透を徹底しました。この結果、役割別各種セキュリティ研修の受講率は100%を維持するなど、社員の積極的な関与を達成しています。プロセス、システム上の管理強化の取り組みにおいても、顧客情報の取り扱い手続きの厳格化や情報システムの脆弱性診断の実施拡大を達成しました。

CSR指標2011年度の詳細

CSR報告について

編集方針

本報告書は、NTTコミュニケーションズグループのCSR(企業の社会的責任)について、「グローバルICTパートナーとして、情報通信サービスの提供を通じ、グローバル規模で社会の新たな価値創造や問題解決に取り組み、豊かで持続可能な社会の実現に貢献していく」活動であると位置づけ、グループとして取り組む姿勢・活動を、さまざまなステークホルダーの方々にはわかりやすくご理解いただくことを目的に発行しています。

本報告書では、より正確な報告を期し、NTTコミュニケーションズグループ全体を指す場合は「私たち」、NTTコミュニケーションズやグループ各社を単独で指す場合は、その社名を表記しています。なお、掲載情報はGRIアプリケーションレベルBと考えています。今後も継続的に掲載情報の改善を図っていきます。

重要なテーマおよび掲載事項の選定について

本報告書では、NTTコミュニケーションズグループが重要と考えている情報、ならびに、社会からの要望が高くかつステークホルダーの方々が必要としている情報をバランスよくご提供するため、GRIガイドライン第三版の[重要性]報告原則などを参考に、右記の2段階のプロセスを経て掲載テーマを選定しています。

また、選定結果に即し、CSR重視経営の要点として重要度が高い情報はダイジェスト版に、より詳細な情報は詳細版に、それぞれ掲載することで、読者の関心に即した利便性の向上を図っています。

なお、2012年版では、ISO26000の浸透などを受けグローバルな企業グループとしてのCSRの浸透に関する説明性の改善を図ると同時に、事業の現場で進む社会への貢献の模索についても積極的な情報開示を心がけました。

● 2段階の選定プロセス

段階1: 掲載を検討すべきテーマおよび事項を、以下から把握

- GRIガイドラインを踏まえた、従来からの掲載項目
- 同業および周辺業種の各社が掲載しているテーマ
- ISO26000の発行に伴い関心が高まりつつあるテーマ

段階2: 掲載項目を以下の6つの視点から選考

- CSRに関する専門家、専門機関の調査により特定された持続可能性の影響・リスク・機会に関するテーマ
- メディアにより頻繁に取り上げられたCSRに関するテーマ(社会的関心事)
- 関連するステークホルダーが重視しているテーマ(従業員・お客さまへのアンケートなど)
- 組織の主要な理念・方針(経営理念、「CSR基本方針」、「Our Business Principle」など)に関連するテーマ
- 組織およびその事業活動などに関連する法規・規制や自主協定に関するテーマ(電気通信事業法、電気通信事業者協会の規則など)
- 他社(同業他社・CSR先進企業など)が重要と考えるテーマ

報告書のプロフィール

● 参考にしたガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版」
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
ISO26000:「社会的責任に関する手引き」
※GRIガイドラインおよび環境報告ガイドラインと本レポートの対応については、Webで公開しています。

● 第三者意見について

CSR活動をより良いものにしていくために、外部の有識者より毎年、第三者意見をいただいています。2012年は、ASUインターナショナル斎藤氏よりご意見をいただきました。

● 対象範囲

本報告書は、NTTコミュニケーションズグループCSR基本方針にもとづき、CSR活動を報告するうえで重要な組織「NTTコミュニケーションズおよびグループ会社」を対象としています。ただし、対象範囲の異なる報告は、個々に対象範囲を明記しています。

● 対象期間

2011年度: 2011年4月1日～2012年3月31日
(報告の一部に、同期間の前後の活動と取り組み内容も含め掲載しています。)

● 発行情報

発行日: 2012年10月
(前回発行:2011年10月、次回発行:2013年10月予定)

第三者意見

詳細情報

報告媒体について

CSRサイト

<http://www.ntt.com/csr/index.html>

CSR活動の最新情報を随時更新。NTTコミュニケーションズグループ各社のCSR活動をご覧いただけます。

CSR報告書サイト

<http://www.ntt.com/csr/report2012/>

「NTTコミュニケーションズグループCSR報告書2012」の内容を網羅的に掲載しています。「ダイジェスト版」と「詳細版」の2部構成としつつ、媒体ごとに想定読者を意識し効果的な情報提供を目指しています。なお、2012年版よりICT企業ならではのCSR報告として、報告の電子媒体化を実施しました。

【ダイジェスト版】では、NTTコミュニケーションズグループのCSR活動の中から、より重要度が高い取り組みを一般の方でもわかりやすくご紹介いただけるよう紹介しています。

【詳細版】では、NTTコミュニケーションズグループのCSR活動事例や詳細データを網羅的に掲載し、多くの具体的な活動事例をご覧いただける内容としています。



NTTコミュニケーションズは、皆さまに当社のホームページをさらに便利で快適にご利用いただくために、ホームページリニューアルを行いました。今後とも、皆さまのより一層のご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会社概要

会社名	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 NTT Communications Corporation
本社所在地	〒100-8019 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号
営業開始日	1999年7月1日
資本金	2,117億円
従業員数	8,000人(2012年3月31日現在)
事業内容	電気通信事業等
主な参加団体	電気通信事業者協会 理事 日本ネットワークインフォメーションセンター 理事 海外通信・放送コンサルティング協力 理事 全国地域情報化推進協会 理事 IPv6普及・高度化推進協議会 理事

世界で評価されている実績

NTTコミュニケーションズは、英国の調査会社Telemark Services社の顧客満足度調査で、4年連続World Classの認定を受けています。また、Diamond Award・Gold Awardを受賞しています。

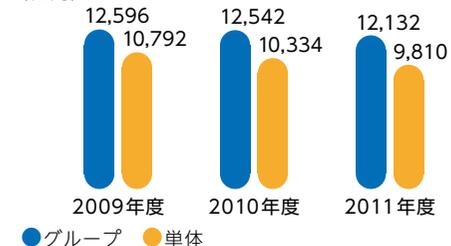
● World Class

● Diamond Award
● Gold Award

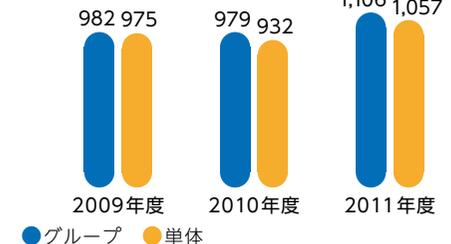


出典：Telemark Services “Global dataVPN NTT Com Highlights (February 2010)”
Telemark Services “Global dataVPN NTT Com Highlights (February 2010)”
Telemark Services “Global dataVPN NTT Com Highlights (August 2010)”

営業収益 (億円)



営業利益 (億円)



従業員数 (人)

